

第22回

臨床薬理試験研究会

テーマ

「コロナ禍のブランク中に進んだこと」
—非臨床と臨床をつなぐ／治験におけるDX化—

日時：2023年7月1日(土)10:00～17:00

会場：北里大学 白金キャンパス プラチナタワー12F

ハイブリッド開催

会費：8,000円

(web参加のみの場合は3,000円)

右記Peatixよりお申し込みください
※Peatixが使用できない方はメール
でご連絡ください。

お申込み・詳細は
右記QRコードを
ご確認ください



会長：蓮沼 智子(北里大学北里研究所病院)

お問い合わせ先：jimukyoku-idd@cp-study.com

URL：<https://cp-study22.peatix.com/>

ご挨拶

令和2年に開催する予定だった第22回がコロナ禍のため延期となっておりました。コロナ感染症も世界的に収束の方向に向かっており、今年やっと開催できることになりました。

過去3年間、臨床薬理の分野でも激動の時代で、さまざまな制限、そしてそれを乗り越えるための手法が開発されました。会員の皆様にもさまざまな変化があったことと思います。

今回は、3年間の空白を経て、臨床薬理試験の世界であった変化に焦点をあて、皆様とディスカッションをしたいと思います。さらに臨床と非臨床の垣根を越えるためにはどうしたら良いか、というテーマについてもそれぞれのお立場の方々にご講演いただき、皆様と熱いディスカッションをしたいと思います。

北里大学北里研究所病院
蓮沼 智子

期日：7月1日（土）10時～17時（17時より懇親会）

場所：北里大学白金キャンパスプラチナタワー12F（ハイブリッド開催）

東京都港区白金5-9-1（アクセスは最後を参照）

会費：八千円（web参加のみの場合は3千円）

参加登録：以下より登録お願い致します

<https://cp-study22.peatix.com/>

（できない場合は以下にメールでご連絡ください）

jimukyoku-idd@cp-study.com

第22回臨床薬理試験研究会 プログラム

テーマ:「コロナ禍のブランク中に進んだこと」
—非臨床と臨床をつなぐ／治験におけるDX化—

10:00～10:05

開会の辞 蓮沼 智子（北里大学北里研究所病院）

10:05～12:00

シンポジウム1:「早期臨床試験における非臨床試験の重要性」

座長; 寺尾 公男（中外製薬）

シンポジスト: (各演者 20分 x 4 + パネルディスカッション 30分)

1 非臨床の立場から

鈴木 睦（製薬協医薬品評価委員会基礎研究部会、協和キリン）

2 個体差で終わらせない！バックトランスレーショナル研究

永易 美穂（中外製薬株式会社 医科学薬理部）

3 疾患バイオバンクとしてのバイオバンク・ジャパン：ヒト生体試料の利活用にむけての取組みと現状

森崎 隆幸（東京大学医科学研究所バイオバンク・ジャパン）

4 早期臨床試験担当医の立場から

吉原 達也（医療法人相生会 福岡みらい病院）

パネルディスカッション（約30分）

12:00～13:30

昼休み（世話人会）

13:30～14:30

特別公演: 経験から考える ICH E14/S7B ガイドラインのポイント

座長; 蓮沼 智子（北里大学）

演者: 及川 淳（北里大学医学部臨床研究センター）

14:45～16:45

シンポジウム2：「薬剤開発におけるDXの現状」

座長；大谷 直由（獨協大学）

シンポジスト：（各演者20分 x 4 + パネルディスカッション30分）

1 規制当局の見解

福田 祐介（厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課）

2 製薬協での取り組み

船津 敏之（日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 臨床評価部会、アステラス製薬株式会社）

3 医療機関での取り組み（クリニック）

長嶋 浩貴（東京センタークリニック）

4 医療機関での取り組み（大学病院）

氏原 淳（北里大学北里研究所病院）

パネルディスカッション（約30分）

16:45～

閉会の辞 熊谷 雄治（北里大学）

17:00～

懇親会：白金キャンパス内で調整中

アクセス

HPをご参照ください

<https://www.kitasato-u.ac.jp/hokken-hp/visitor/access/>



キャンパス内案内図

周辺地図

※東門、西門、北門は22時から翌5時までは使用できません。



正門入ってすぐ左手の高い建物です。